

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ポリエステルスパンボンド「エクーレ®」 W8851AD,
製品コード	W8A01AD, W8A51AD, W8A81AD, W8B01AD
供給者の会社名称	東洋紡エムシー株式会社
住所	大阪市北区梅田一丁目13番1号 大阪梅田ツインタワーズ・サウス
担当部門	パンボンド営業ユニット
電話番号	06-6348-3363
FAX番号	06-6348-3400
推奨用途	工業資材、車両資材用途等
使用上の制限	溶融加工不可

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響	可燃性物質であり、着火源あれば燃える。
物理化学的危険性	通常の状態では人の健康に対する有害な影響は小さい。
健康有害性	燃焼/溶融などの高温でアセトアルデヒドなどの有害ガスなどが発生するおそれがある。
特有の危険有害性	。
GHS分類	分類基準に該当しない。

3. 組成及び成分情報

化学物質/混合物	混合物(成形品)
化学名又は一般名	ポリエチレンテレフタレート
別名	ポリエステル、PET
CAS番号	25038-59-9
官報公示整理番号 化審法(安衛法)	7-1022(公表)
濃度又は濃度範囲	98%以上
化学名又は一般名	添加剤(「酸化チタン」)
CAS番号	13463-67-7
官報公示整理番号 化審法(安衛法)	1-558(公表)
濃度又は濃度範囲	0.5%未満
化学名又は一般名	添加剤(「カーボンブラック」)
CAS番号	1333-86-4
官報公示整理番号 化審法(安衛法)	5-5222(公表)
濃度又は濃度範囲	1%未満

4. 応急措置

吸入した場合	溶融物等から発生するガスを吸って気分が悪くなった場合には、直ちに新鮮な空気の場所に移し、医師の診断・手当を受ける。
皮膚に付着した場合	溶融物の場合は直ちに大量の清浄な水で冷やす。皮膚上の固まった樹脂は無理に
眼に入った場合	直ちに清浄な水で数分以上洗い、不快感が残る場合は医師の診断・手当を受ける。で
飲み込んだ場合	きるだけ吐き出させ、異常がある場合は、医師の診断・手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤	水、二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤
使ってはならない消火剤	なし
特有の危険有害性	不完全燃焼すると一酸化炭素、アセトアルデヒド等の有害ガスを発生する。
特有の消火方法	風上側から、水や二酸化炭素等により消火する。
消火を行う者の保護	大規模な火災の場合は呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具、緊急時措置	人体に対する危険有害性は小さいと考えられる。必要に応じて保護具(保護用手袋、保護用マスクなど)を着用し、皮膚への付着、眼、口への侵入を防ぐ。
環境に対する注意事項	環境への影響は小さいが、長期間残留すると考えられるので環境中に廃棄しない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	簞や掃除機等で全量回収する。

安全データシート

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

安全取扱い注意事項

接触回避

保管

安全な保管条件

安全な容器包装材料

粉塵の発生や溶融を伴う作業をするときは、換気を十分行う。また、呼吸用保護具の着用が好ましい。

常温では引火性はないが、消防法指定可燃物であり、近くでみだりに火気を使用しない。

。ロール状物は重量物のため、落下しないように注意する。

高温体との接触を避ける。

消防法指定可燃物であり、市町村条例に従う。（

消火設備、屋内貯蔵、取扱所など）

重量物のため荷崩れをふせぐ。

強酸化剤、濃硫酸、フェノール類と隔離して保管する。

紙またはポリエチレンフィルム

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

保護具

呼吸用保護具

手の保護具

眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

溶融を伴う作業等がある場合は溶融樹脂と作業者の間に隔壁を設け、換気設備を設置する。また、呼吸用保護具の着用が好ましい。

粉塵が多い場合は防塵マスクの着用が望ましい。

シートによる擦過傷を防止するために保護手袋を着用する。

粉塵が多い場合は保護眼鏡の着用が望ましい。

シートによる擦過傷や、溶融を伴う作業等では保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観 物理的状态

形状

色

臭い

臭いのしきい(閾)値

融点・凝固点

沸点、初留点、および沸騰範囲

燃焼性(固体、気体)

燃焼の又は爆発範囲

引火点

自然発火温度

分解温度

pH

粘度

動粘度

溶解度

n-オクタノール／水 分配係数

蒸気圧

密度

蒸気密度

蒸発速度

粒子特性

固体

ロール状

黒色

無臭

データなし 255～

260℃ PET

データなし

可燃性。着火源があれば燃える。

なし

データなし

480℃以上

データなし

該当しない

データなし

データなし

水に不溶

データなし

データなし

1.35～1.40 g/cm³ (23℃)

データなし

データなし

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的反応性、化学的安定性

危険有害反応可能性

避けるべき条件

混融危険物質

危険有害な分解生成物

常温、単独では安定である。

常温、単独では安定である。

溶融などの高温では一部熱分解する。着火源があれば燃える。

高熱、炎

強酸化剤

溶融、燃焼などの高温ではアセトアルデヒド等の有害ガスを発生する。

安全データシート

11. 有害性情報

急性毒性(経口)

区分に該当しない

主成分は高分子であり、摂取しても吸収されないため有害性は低いと考えられる。

急性毒性(経皮)

分類できない

急性毒性(吸入)

分類できない

皮膚腐食性／刺激性

分類できない

粉塵や溶融時に発生するガスは、皮膚を刺激するおそれがある。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

区分に該当しない

粉塵や溶融時に発生するガスは、眼を刺激するおそれがある。

呼吸器感作性

分類できない

溶融時に発生するガスは、吸引するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれがある。

皮膚感作性

分類できない

溶融時に発生するガスは、皮膚に接触するとアレルギー性皮膚炎を起こすおそれがある。

生殖細胞変異原性

分類できない

発がん性

酸化チタン、カーボンブラックとともにIARCはGroup 2B、日本産業衛生学会は第2群Bに分類されています。

生殖毒性

分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

分類できない

溶融時に発生するガスは、気道を刺激するおそれがある。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

分類できない

溶融時に発生するガスは、気道を刺激するおそれがある。

誤えん有害性

分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

急性毒性

魚類

甲殻類

藻類

慢性毒性

魚類

甲殻類

藻類

残留性・分解性

生体蓄積性

土壤中の移動性

オゾン層への有害性

区分に該当しない

区分に該当しない

区分に該当しない

区分に該当しない

区分に該当しない

区分に該当しない

区分に該当しない

区分に該当しない

生分解性なく安定で、環境中に長期間残留すると考えられる。ないと考えられる。

水に溶解しないのでないと考えられる。

データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄物処理法の廃プラスチック類に該当する。産業廃棄物処理業者若しくは地方公共団体が処理を引き受けている場合には地方公共団体に委託する。

汚染容器及び包装

残余廃棄物と同じ。

14. 輸送上の注意

国連勧告

国連分類

国連番号

品名(国連輸送名)

容器等級

海洋汚染物質

輸送の特別な安全対策

国連危険物輸送勧告の危険物に該当しない。

国連勧告の定義上の危険物には該当しない。

—

—

非該当

重量物のため、転倒、落下がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。破袋の恐れがあるので、水濡れや、乱暴な取扱いはいししない。

国内規制

陸上海

上航空

輸送に関する法規制には該当しない。

輸送に関する法規制には該当しない。

輸送に関する法規制には該当しない。

安全データシート

15. 適用法令

労働安全衛生法
通知／表示対象物(政令番号)
消防法
廃棄物処理法

カーボンブラック、酸化チタン
指定可燃物
廃棄時は産業廃棄物、廃プラスチック類

16. その他の情報

制約事項

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。
また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別の取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。
記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。